



CITIZEN

シチズングループ
CSR報告書2019

CITIZEN GROUP CSR REPORT

ダイジェスト版

市民に愛され 市民に貢献する

シチズンの掲げる企業理念「市民に愛され市民に貢献する」とは、
「市民に愛され親しまれるものづくり」を通じて
世界の人々の暮らしに広く貢献することです。
シチズングループは2018年に創業100周年を迎えました。
そして今年、シチズングループの次の100年を見据えた成長と、
持続可能な社会の発展への貢献を目指し、新たな第一歩を踏み出しました。

本ダイジェスト版概要

シチズングループは、すべてのステークホルダーの皆さまに CSR の取り組みをご理解いただくことを目指し、CSRに関する活動状況をご報告します。本ダイジェスト版では新たな「中期経営計画 2021」で開始した、シチズングループの持続的な企業価値の向上に向けた「サステナブル経営」の方向性をお示するとともに、製品や事業を通じた社会課題解決及びマテリアリティに関する取り組み状況をご報告しています。また、シチズングループの CSR マネジメントの概要についても、分かりやすくご報告しています。

編集方針

「シチズングループのCSR WEBサイト」では、本ダイジェスト版の内容も含め、事例紹介や環境・社会面のデータを含めたより詳細な CSR 活動の取り組みを開示しています。

報告対象期間：2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日）

※一部、上記対象期間後の最新情報も含まれます。

本ダイジェスト版発行時期：2019年6月

経済データ報告対象組織：国内20社、海外72社（計92社）

環境データ報告対象組織：国内14社、海外15社（計29社）

免責事項：本報告書には将来予測も記載しています。これらは記載した時点で入手できた情報に基づいたものであり、実際の活動結果が予測と異なる可能性もあります。

参考としたガイドライン：「GRI サステナビリティ・レポートニング・スタンダード」「環境報告ガイドライン2018年版」

外部保証：開示データが限定的であることから、外部保証は今後の課題としています。

冊子(ダイジェスト版)

マテリアリティへの取り組み状況を中心に、シチズングループのCSRを分かりやすくお伝えしています。



WEBサイト(詳細版)

WEBサイトでは、より詳細な CSR 活動の取り組みを開示しています。
<http://www.citizen.co.jp/social/index.html>



CITIZEN GROUP CSR REPORT contents 2019

- 01 企業理念・本ダイジェスト版概要・編集方針
- 02 目次
- 03 トップメッセージ
- 05 **特集1** シチズングループの「サステナブル経営」
- 08 **特集2** 持続的成長に向けた「人権の尊重」への取り組み
- 09 パフォーマンスハイライト
- 10 CSRマネジメント
- 13 2018年度のマテリアリティへの取り組み
 - 13 コーポレートガバナンスの強化・リスクマネジメントの徹底・コンプライアンスの徹底
 - 15 働きやすい職場環境づくり
 - 16 責任ある調達推進
 - 17 環境イノベーションの促進
 - 19 社会貢献活動の促進
- 21 CSRイニシアチブと社会からの主な評価
- 22 シチズングループの事業活動



次の100年を見据えた
事業成長の実現に向け、
SDGs達成への貢献を通じ、
新たな価値の創造に
挑戦していきます。

シチズングループは今年、創業101年目を迎え、新たな一歩を踏み出しました。この節目の年にスタートした「中期経営計画2021」では、グループ中期経営ビジョンの「Innovation for the next ～時を感じ、未来に感動を～」を掲げ、それぞれの事業において新たな価値創造に挑戦していきます。

前中期経営計画「シチズングローバルプラン2018」では、「真のグローバル企業」への進化に向け、中核の時計事業におけるマルチブランド戦略の推進と、第二の柱として成長を目指す工作機械事業での、新技術を取り入れた製品開発及びソリューション提案に注力しました。後者においては、前倒しでの数値目標の達成となりましたが、時計事業においてはインバウンド需要の落ち込みや市場の変化を受けた減速により、先行きが読めない中で新たな中期経営計画を開始することとなりました。

今年度、新たに開始した「中期経営計画2021」では、重点施策のひとつとして、全グループでの「サステナブル経営」の推進を掲げています。将来の事業成長に繋げる為、2030年を見据えたグローバルな社会課題であるSDGs(持続可能な開発目標)達

成に貢献していくことを目指します。

社名のシチズンは「市民」に由来し、「市民に愛され市民に貢献する」ことを企業理念として謳っています。この理念を、事業活動を通じて実践していくことこそが我々の使命であると考えています。

新たに開発した、クリーンなエネルギー技術を生かした付加価値のある製品に加え、その製造プロセスにおいても「サステナブルファクトリー」というコンセプトを打ち出しています。そのコンセプトのもと、従来からの環境配慮に加えてサプライチェーン全体でコンプライアンスや人権、労働慣行にも総合的に配慮したものづくりを進めていきます。結果として、お客様にはエシカルな製品を選択して頂くことが可能となり、シチズンの製品がもたらす従来からのベネフィットに加え、所有する意味にも必然性を見出すことができる、そんな新たな価値の創造を目指していきます。

時計は消費者の生活との密着度が高いのが特徴であり、それぞれのライフスタイルに寄り添った製品を提供していくことが、事業を通じた価値創造であると認識しています。急成長を続けるスマート

ウォッチ市場においては、Fossil Group, Inc.との提携やIoTプラットフォーム「Riiiver」の株式会社ヴェルトとの共同開発を通じ、シチズンならではのスマートウォッチのプラットフォームを生み出していきます。

一方、工作機械事業等においても、シチズンならではの環境に配慮した製品の価値を生み出していきます。切削加工時の残材の削減技術の開発等を通じ、顧客企業における環境負荷の軽減と生産効率の向上に寄与していきます。

2018年度、シチズングループではマテリアリティ(重要課題)を見直し、「品質への取り組み」に加え、新たに「人権の尊重」を課題としました。グローバルで事業を展開する以上、人権への配慮は基本事項であり、市民に貢献することを謳っているシチズンだからこそ重要な点でもあると考えています。課題認識に基づき、人権方針を策定したほか、ダイバーシティへの取り組みもこれまで以上に積極的に推進していく考えです。

また、昨年より開始した「社会貢献活動派遣制度」では、国内外の様々な地域へ従業員を派遣し、各地

の社会課題と向き合いながら支援活動を行っています。当該活動に参加し、多様な視点を持つことは新たな気づきに繋がるとともに、従業員自身の成長や、事業活動への良い影響に結びつくことを期待しています。

シチズンが愛されるにはどうすべきか、更に「市民に貢献する」とはどういうことなのか、常に問い続けることが重要であると考えています。創業当時、時計が外国からの輸入品であった時代には、国産の時計作りが市民に愛される所以であったかもしれませんが、100年前と現在とは市民像も変化しています。グローバル化が進展した現在、シチズンは世界中の人たちに寄り添い、すべての市民にとって共通の課題であるSDGs達成に貢献することで、次の100年も継続できる企業への成長を目指します。

シチズン時計株式会社
代表取締役社長

佐藤敏彦

「サステナブル経営」の始動

創業 101 年目の節目となる年に、シチズングループは新たな「中期経営計画 2021」を開始しました。

グループ中期経営ビジョン「Innovation for the next ~時を感じ、未来に感動を~」のもと、事業を通じた新たな価値創造に挑戦します。その重点施策のひとつが、全グループでの「サステナブル経営」の推進です。

シチズングループは「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念を原点に 100 年にわたり事業を展開してきました。今後も、シチズングループが世界中の人たちから必要とされ「愛される企業」となるには、社会の変化に対応した製品・サービスの創出や、それ

らを生み出す調達や生産プロセスへの配慮、そして、根底を支える企業姿勢も含めて社会から受け入れられる必要があると考えています。単に良い製品・サービスを提供するだけでなく、人権や地球環境などの社会課題にも配慮した経営を通じ、ステークホルダーからの信頼を獲得しながら事業を拡大し、企業価値の向上を図ること、それがシチズングループの考える「サステナブル経営」です。私たちは市民に寄り添い「愛される企業」になる為に、事業を通じて SDGs 等の社会課題の解決に寄与し、次の 100 年間も継続していく企業を目指します。

サステナブルプロダクツを通じた社会課題の解決

シチズングループの「サステナブル経営」は、2030 年を見据えたグローバルな社会課題である SDGs 達成に貢献していくことが、将来の事業成長には不可欠であるという考えにもとづいています。「サステナブル経営」を通じて、シチズングループは、2030 年までにグループの各事業分野において、主要な社会課題に配慮したサステナブルプロダクツ^{*1}

を創出していきます。シチズングループの中核事業である時計事業と、第二の柱としての育成を目指す工作機械事業を皮切りに、段階的に全事業への展開を図ります。

*1 サステナブルプロダクツ…サステナブルファクトリーから生産される製品。

サステナブルプロダクツの事例

時計事業		工作機械事業	
背景	不確実性の高い現代においては、時代の変化に敏感に対応し、スピード感をもって新たな技術や製品を創出していくことが求められます。そのためにはパートナーシップを通じ、従来とは異なる視点を持つことで革新性を生み出すことが重要だと考えています。更に、現代においては、製品の価値のみならず、製品を作り出す過程における人権や労働問題、環境保全等に総合的に配慮した、サステナブルなものが求められています。	背景	少子化による人口減少や高齢化により、特殊技能を持つ継承者不足による事業継続の危機が深刻な問題となっています。それゆえ高度なものづくりを伝承する新たな方策が求められています。また、革新性の高い製品の創出のみならず、限りある資源の有効活用や廃棄物の削減等、環境保全を両立させることも、ものづくり企業の責任であると考えます。
事業ビジョン	時を通して新たな価値と体験を創造する	事業ビジョン	世界最先端の生産革新ソリューションを創造し「新・モノづくり企業」のポジションを確立する
シチズンの取り組み	多様化するユーザーが求める機能を独自にカスタマイズできるスマートウォッチを開発していきます。株式会社ヴェルトと共同開発の IoT プラットフォーム「Riiiver」では、時計に限らず、AI スピーカーや家電を含め、様々なデバイスを繋ぐことを可能とし、ユーザーそれぞれのライフスタイルをより便利にかつ快適に、面白いものへと変えていきます。シチズンでは、従前より製品の高付加価値化に取り組み、エコ・ドライブやシチズン エル等、環境や社会に配慮した製品を展開してきました。今後は更に高効率かつクリーンエネルギー源による次世代電力を搭載した、製品群を拡充していきます。シチズンのエシカルな時計を通じ、生産や資源消費に対する人々の意識を変え、社会課題解決に関わる機会を提供していきます。	シチズンの取り組み	工作機械事業では、特殊技能が必要な製造工程の自動化に挑戦していきます。従来の機械では難しいとされてきた高度な技術を機械化することによって、安定した品質の確保、生産性の向上に繋がります。これらの取り組みを通じて将来の労働者不足に起因する技能伝承問題の解決に寄与していきます。更に、シチズンの環境配慮技術を備えた製品群を拡充し、切削加工における残材の削減技術の開発や、加工と切りくずの細分化処理を同時に行う技術の搭載により、資源使用量の削減に貢献し生産効率の向上に寄与していきます。



コラム 環境や人権に配慮したエシカルウォッチ「シチズン エル」

シチズンを代表するレディスウォッチブランド「CITIZEN L (以下、シチズン エル)」は、2016 年より、世界初のエシカルをコンセプトとした腕時計として約 50 カ国で展開しています。

シチズンが誇る定期的な電池交換不要で廃棄電池を排出しない、光発電機能であるエコ・ドライブを搭載しているだけでなく、「シチズン エル」では、製品の生まれる背景にも配慮した、5 つの「エシカルコミットメント^{*}」を掲げています。例えば、時計を身に着ける利用者はもちろん、製造プロセスにおいても、人体へ有害な成分を含有していないことを示す製品成分表や、材料調達から製造、廃棄やリサイクルに至るまで、時計のライフサイクルにおいて排出される温室効果ガスを試算 (CO₂ 換算) し、カーボンフットプリントとして表示・公開しています。

- 製品成分表の公開
- 取扱説明書のスリム化
- CO₂ 排出量の公開
- サステナブルな時計パッケージ
- DRC コンフリクト・フリーを宣言

更にはコンゴ民主共和国及びその周辺国において、問題となっている武装勢力の資金源となる違法に採掘された紛争鉱物を使用しない DRC コンフリクトフリー宣言をはじめとした各種宣言の下で、厳密に管理された生産体制から生み出された製品です。こうした「シチズン エル」の取り組みは、2018 年、環境負荷の低減に配慮した製品・サービスを表彰する第 1 回エコプロアワード (旧エコプロダクツ大賞) 奨励賞を受賞する等、社会から高く評価されました。

ものづくりに携わる企業の責任として、シチズンは「シチズン エル」のエシカルな製品や配慮を通して、消費者に気づいてもらうことも重要であると考えています。サステナブルなモノづくりに関わる情報を積極的に発信していくことで、消費者啓発や、最終的にはシチズンのサステナブルかつエシカルな製品を選択して頂くことを目指します。



* エシカルコミットメントの詳細は、「シチズン エル」ブランド WEB サイトよりご確認ください。
<https://citizen.jp/l/special/disclosure/index.html>

2019 年 4 月には、ソーシャルキャンペーン「New TiMe, New Me」を開始し、「シチズン エル」の限定モデルの発売とともに、「始まりは小さな選択だとしても、世界をほんの少し変えられるかもしれない」というメッセージとともに、社会や環境に目を向け、できることから始めようと呼び掛けるイベントを実施しました。エシカルな製品をより多くの人に知ってもらうことを目的としたタッチ・アンド・トライや、時計を大切に長く使い続けてもらうためのメンテナンスの実施、SDGs に自分らしく取り組むきっかけを見つけるワークショップは、連日、常に会場内が賑わうイベントとなりました。更に、

シチズンの SDGs への取り組みやエシカルな製品の展示を通じ、来場者楽しんで頂きながらシチズンのサステナブルな取り組みについて知って頂くことができました。



サステナブルファクトリー 構想

将来のサステナブルプロダクツの創出に取り組むにあたり、シチズングループではその製造プロセスにも配慮した「サステナブルファクトリー」というコンセプトを打ちだしました。従来からの環境配慮に加え、お取引先も含めたバリューチェーン全体における、コンプライアンスや人権、労働慣行、BCP^{*}、生産性向上などにも、総合的に配慮した持続可能な生産施設を整備していくことを約束しています。

SDGs 達成等、持続可能な社会に積極的に貢献していく為の取り組みとしての構想を進めています。

^{*} BCP(事業継続計画) …大規模災害等による事業活動への影響に備え、製品やサービスの供給を継続、または早期復旧を可能とする為、必要な体制や役割、対応手順等の計画を平常時に定めること。

サステナブル経営の概念図



グループを通じたSDGsへの取り組み

シチズングループでは、グループ一丸となって「サステナブル経営」に取り組む為、「サステナブル委員会」を設置し、SDGs達成貢献への取り組みを推進していきます。

講演会の実施

「中期経営計画2021」で掲げた「サステナブル経営」のスタートにあたり、グループで、SDGsの推進を中心となって担う層を対象に、知識と意識付けのための講演会を開催しました。3回の講演会では、「SDGs」「ビジネスと人権」「持続可能な調達」をテーマに有識者をお招きし、事業を通じた社会課題解決

また、全従業員に向け、SDGs理解の促進を図り、サステナブル経営に一層の推進力をつけるため、勉強会や社内報を通じた従業員の啓発活動にも取り組んでいます。

やグローバルな視点での倫理的な取り組みについて学びました。更に、今後のグループ各社の具体的な施策に生かすため、人事や調達などの、各担当部門を対象とした人権やCSR調達などテーマごとの勉強会も実施しました。

社内報を通じた情報発信

毎月発行されるシチズングループの社内報「CITIZEN FUTURE」において、「SDGsを学ぼう!」を連載し、SDGsの社内浸透を図っています。まずは、SDGsの17のゴールの内容について学びながら、「誰ひとり取り残さない」世界実現のために一人ひとり何ができるのか、考えるきっかけを提供し、今後、事業に生かしていくことを目指しています。



シチズングループにおける人権の尊重への取り組み

シチズングループは、「市民に愛され市民に貢献すること」を企業理念とし、創業以来、事業活動を通じ、世界中の人々の暮らしに広く貢献することを目指してきました。2005年からはグローバルに事業を展開する企業の一員として、国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての10原則を軸とする「国連グローバルコンパクト」に参加しています。

また、シチズングループの従業員の拠り所と位置づける「シチズングループ行動憲章」では、お取引先における活動まで対象を広げた、従業員の人権に配慮した事業活動を行うことを定めており、その浸透活

動にも積極的に取り組んでまいりました。「中期経営計画2021」の開始に伴い、全社的な「サステナブル経営」への挑戦と、事業活動を通じた一層のSDGs達成への貢献を目指す方針に基づき、2019年4月、「シチズングループ人権方針」を策定し、人権の尊重に対するシチズングループの姿勢を改めて示しています。2019年4月には、「現代奴隷および人身売買に関する声明」と「シチズングループ紛争鉱物対応方針」も合わせて発表しており、人権に関わる問題認識に基づき、グローバル企業としての責任を全うする「サステナブル経営」に取り組んでいきます。

シチズングループ人権方針の策定

シチズングループは、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」を支持し、これに基づく人権方針を2019年4月に策定しました。本方針では、シチズングループが事業を行う上で関わるすべてのステーク

ホルダーの尊厳と権利を尊重することを約束するとともに、人権侵害への加担をしないこと、また人権に対する負の影響を生じさせた場合には救済及び是正に向けた対応を行うことを約束しています。

人権の尊重に関する取り組み

シチズングループでは、すべてのステークホルダーの人権を尊重した事業活動を行うため、人権の尊重を謳う各種方針、規定を周知し、浸透させるべく、各種コミュニケーション活動や研修を積極的に行って

います。また、人権リスクの特定手段として、サプライヤーに対するアンケートや、従業員向けの意識調査も定期的実施するほか、救済措置としての、各種相談・通報窓口を整備しています。

シチズングループのバリューチェーンとステークホルダー	サプライヤー	シチズングループ (従業員、臨時雇用者、技能実習生)	地域コミュニティ(消費者)
方針、規定等の周知、浸透	シチズングループ人権方針/英国現代奴隷法に関する声明		
リスクの特定	<ul style="list-style-type: none"> シチズングループCSR調達ガイドライン シチズングループ紛争鉱物対応方針 	<ul style="list-style-type: none"> シチズングループ行動憲章の浸透活動 ビジネスと人権に関する研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> お客様相談窓口
	<ul style="list-style-type: none"> サプライヤーアンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> CSR意識調査の実施 ストレスチェック(web) 事業所における目安箱の設置 グループコンプライアンスホットライン ハラスメント相談窓口 こころの相談室(シチズン時計) 健康相談 	

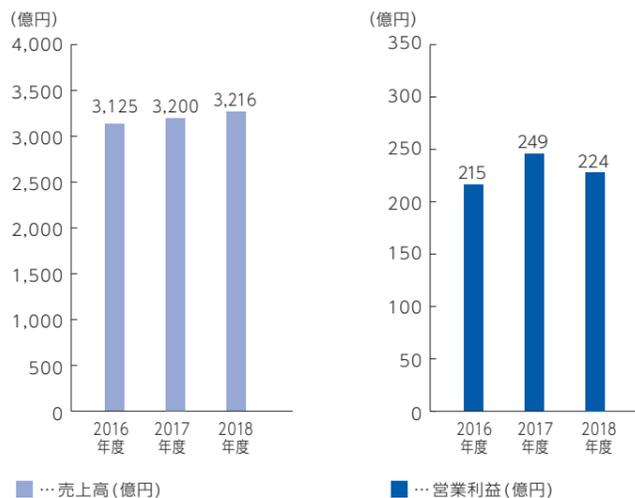
シチズングループの財務実績

2018年度は、緩やかな回復傾向にある国内経済や、雇用環境の改善が続き回復の兆しを示す米国、英国のEU離脱による見通し不透明な欧州、中国をはじめとして景気を持ち直し基調が見られるアジアなどの経済状況の中、中期経営計画のもと製造革新を進め収益力強化を図るとともに、真のグローバル

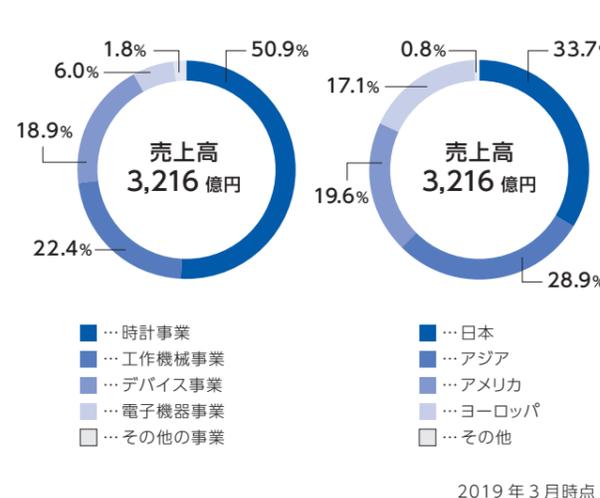
企業となるべく時計事業を中心に新たな成長戦略を推進してまいりました。

その結果、売上高は3,216億円、営業利益は224億円と増収減益となりました。また、経常利益は266億円、親会社株主に帰属する当期純利益は133億円となりました。

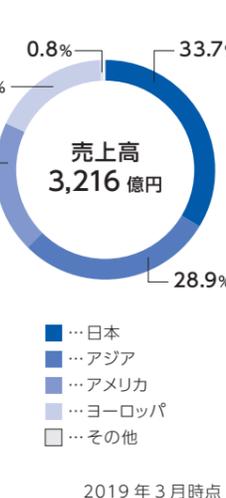
収益性情報



事業別売上高比率



地域別売上高比率



2019年3月時点

シチズングループの非財務実績

「シチズングループ行動憲章」の
翻訳言語数 **10**言語

健康経営優良法人 2019
大規模法人部門 **500**認定

CSR調達ガイドライン
配布サプライヤー比率※ **30.3%**

海外環境法規制
モニタリング数 **756**件

社会貢献活動派遣制度
参加従業員数 **210**人

※ シチズン時計、シチズンマシナリー、シチズン電子、シチズンファインデバイス、シチズン・システムズ、シチズン時計マニュファクチャリング、シチズンTIC

そのほか、詳細なCSRデータについてはwebサイト <https://www.citizen.co.jp/social/data/index.html> にてご確認ください。

シチズングループのCSR

シチズングループは、「市民に愛され市民に貢献する」との企業理念に基づき、「シチズングループ行動憲章」を定めています。この「シチズングループ行動憲章」をグループ従業員の一人ひとりに浸透させ、事業や社会貢献活動を実践することを通して、社会課題の解決に貢献することを「CSR活動」と捉えています。市民に愛され親しまれるものづくりを通じ、世界の人々の暮らしに広く貢献するという思いは、シチズングループの創業の原点です。以降100年にわたり、シチズングループは良い製品を提供することはもとより、すべての企業活動を通じて社会の要請に応え、必要とされ続ける企業であることを目指しています。

2019年度より開始した新たな「中期経営計画2021」

においては、重点施策のひとつとして、全グループでの「サステナブル経営」の推進を掲げています。社会の変化に対応した製品・サービスの創出のみならず、それらを生み出す調達や生産プロセスへの配慮、そして、全企業活動の根底を支えるコンプライアンスや人権、地球環境へ配慮した経営を通じ、ステークホルダーからの信頼を獲得しながら事業を拡大し、企業価値の向上を図り、SDGs等の社会課題の解決に寄与することを目指します。今後、取り組む社会課題については、企業理念や行動憲章、サステナブル戦略、「シチズン環境ビジョン2050」、各事業領域との関連性を鑑みて特定し、課題解決に向けたアクションにつなげるとともに、進捗については外部へ積極的に公開していきます。

CSRの推進体制

シチズングループは、事業持株会社のシチズン時計を中心に、「シチズングループ行動憲章」の浸透展開を図り、従業員一人ひとりが自らの原点を忘れず、社会のためにできることを日々積み重ねていけるよう、全員参加型のCSR活動を実践しています。シチズン時計のCSR室を中心とし、各グループ会社のCSR担当部門と連携し情報共有を図っています。定期的開催するグループCSR連絡会では、グループ全体としての活動の方向性や施策について協議するほか、各社の取り組み状況について確認を行うなど、グループ内でのベストプラクティスの共有も行っています。本取り組みが行動憲章に基づいたCSR活動を

行っている一方、新たに始動した「サステナブル経営」の推進においては、「サステナブル委員会」を設置し、製品・サービスを通じた社会課題解決への取り組みや各マテリアリティの施策を通じ、SDGsへの取り組みの推進を図っています。本委員会においては、シチズングループ全体のSDGsへの取り組みに関する重要事項についての意思決定を行います。委員会の事務局となるシチズン時計の経営企画部門及びCSR部門は、シチズングループのSDGsへの取り組みを推進する役割を持ち、委員会の運営のほか進捗管理、社外への情報開示なども行っています。

CSRの推進体制図



マテリアリティの特定と見直しプロセス

シチズングループでは、2017年度より国際社会の一員かつ、「真のグローバル企業」としての責任を果たし、持続的に成長していくにあたり、優先的に取り組むべきマテリアリティを特定しています。マテリアリティの特定にあたっては、SDGsや、国連グローバル・コンパクト、ISO26000、RBA (Responsible Business Alliances/ 責任ある企業同盟)、GRIスタンダード等のCSR・サステナビリティに関する原則・指針を参照するとともに、社会やステークホルダーにとって重要な社会課題を網羅的に把握し、また、シチズングループの企業理念や行動憲章、中期経営計画等の事業戦略と照らし合わせ、特に重要度の高い課題を特定することで、マテリアリティとして整理しました。2018年度は、創業100

周年記念企画としてシチズングループの従業員を中心に、次の100年に向けてシチズンのあるべき姿について対話を深め、「社会貢献活動の促進」をマテリアリティとして追加しています。更に2019年度には、前年度の不適切検査を受け、「品質への取り組み」を追加するとともに、従来の「コンプライアンスの強化」や「リスクマネジメントの徹底」についても、トップマネジメント層による統率の重要性を改めて認識し、「コーポレートガバナンスの強化」に統合し、「人権の尊重」を加え、グループ全体で取り組むべき6つの課題として設定しています。

今後は、取り組みをより実効性のあるものとするために、各マテリアリティに具体的な目標を設定していきます。

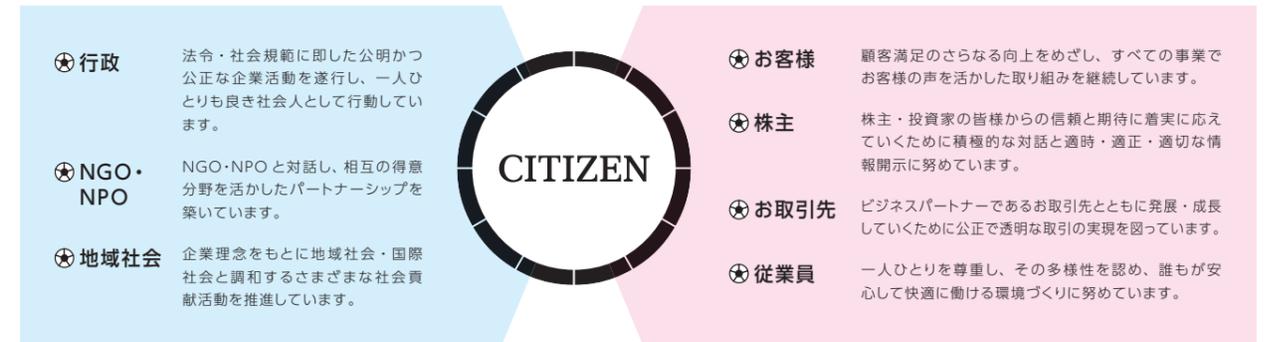
2019年度の新たなマテリアリティ

マテリアリティ	貢献を目指すSDGs
コーポレートガバナンスの強化	10 人や組織の繁栄を促すこと、16 平和と公正な社会を築くこと
品質への取り組み	4 質の高いインフラ整備、9 産業と革新の基盤をつくることが、12 持続可能な消費と生産
人権の尊重と労働慣行	3 健全な働き場を創出すること、5 性別平等を推進すること、8 豊かさと持続可能な成長を促進すること、10 人や組織の繁栄を促すこと
責任ある調達	3 健全な働き場を創出すること、5 性別平等を推進すること、8 豊かさと持続可能な成長を促進すること、12 持続可能な消費と生産、16 平和と公正な社会を築くこと、17 持続可能なパートナーシップを構築すること
環境イノベーションの促進	7 持続可能なエネルギーを確保すること、12 持続可能な消費と生産、13 気候変動と持続可能な開発を推進すること、14 海洋資源を持続的に利用すること、16 平和と公正な社会を築くこと
社会貢献活動の促進	1 貧困をなくすこと、4 質の高いインフラ整備、5 性別平等を推進すること、8 豊かさと持続可能な成長を促進すること、16 平和と公正な社会を築くこと、17 持続可能なパートナーシップを構築すること

ステークホルダーとの関わり

シチズングループは、様々なステークホルダーに支えられながら企業活動を行っています。また、企業理念である「市民に愛され市民に貢献する」を実現するために、日々ステークホルダーとコミュニケーション

を図っています。社会から信頼を得ながら、価値を提供し続けることができる企業を目指し、ステークホルダーの皆さまとの関わりを大切にしています。



ステークホルダー・エンゲージメント

シチズングループは、社会への提供価値を最大化するためには、様々なステークホルダーの要望・期待を経営に取り込み、的確に答えることが重要であると考へ、ステークホルダーとのコミュニケーションを図ることで、企業理念の具現化を目指しています。創業100周年を迎えた2018年度は、シチズングループ

の更なる進化のきっかけの年とすべく、新たな取り組み「シチズン社会貢献活動派遣制度」を開始しました。従業員が活動先のNGO・NPO、地域社会等との連携を通して視野を広げ、社会課題を知り、新たな価値観を取り入れて組織の活性化に繋げてまいります。

ステークホルダー	エンゲージメント方法 / 内容	実績 / 評価	対応 / 計画
お客様	シチズン時計お客様時計相談室に寄せられるご意見、ご要望への対応	お客様時計相談室へのご意見数 8,312 件	お客様の声を活かした商品、改善の検討、今後の課題、計画
	公式WEBサイト、商品WEBサイトで会社情報 事業内容の発信 各種SNSで会社情報 事業内容の発信	facebook フォロワー数約 1,600,000人 (シチズン時計グローバルアカウント)	お客様に役立つ情報の発信と公式 SNS でのコミュニケーション
株主	株主総会 / 投資家との意見交換 / 各種レポートを通じた情報開示 / 決算説明会の実施 / 投資家向けにWEBサイトを通じて情報発信	株主数 31,240 人 / 投資家との個別ミーティング 127 回	ESG に関わる情報開示を通じた株主価値の向上
お取引先	CSR 調達ガイドラインに関する説明会実施	説明会は計画通り実施 / 2019 年度からサプライヤーアンケート実施に向け、グループ内説明会を開催	サプライヤー説明会を計画 / 人権デューデリジェンスの試行
	販売店への商談会での製品情報の提供	展示会用の情報発信ツールが好評を得て、販売店にて活用	相互発展のための情報共有と関係の構築
従業員	グループ社員の集い / 従業員満足度調査の実施 / 上司との面談 / 労使間協議 / 社内イントラネット	グループ社員の集いの参加者約 6,000 人 (創業 100 周年記念イベント)	従業員満足度の向上 / ワークライフバランスの制度拡充 / 安心して働ける職場環境の整備 / 最大限の能力を発揮できる環境の整備
NGO・NPO	社会貢献事業での連携	協働での社会貢献活動派遣の実施回数 16 回、従業員のべ 210 名参加	社会貢献活動派遣成果報告会を開催
地域社会	地域貢献活動 (時計組立教室の実施、寄付やスポンサー活動を含む) / 地域のイベントへの参加 / 工場見学の受け入れ	美化活動への参加社員数 175 人のべ 3,600 名 / 工場見学の受け入れ 214 回 / 時計組立教室の開催 61 回 / 社会貢献活動の寄付金額 43.8 百万円	地域の方々を招待し、事業所内でのイベント開催 / 相互理解を図り、安定した地域社会形成への貢献 / 事業を通じた地域貢献活動の充実

グループガバナンスの強化に向けた取り組み

シチズングループでは、グループ全体の事業目標の達成と持続的な発展を確実なものとする為、グループ全体のリスクを集約管理し、迅速に対応することのできる体制構築として、グループリスクマネジメント委員会を設置しています。

グループリスクマネジメント委員会は、品質コンプライアンスモニタリング委員会からの引継ぎ業務であるグループガバナンス強化及び品質コンプライアンス強化に向けた取り組みの進捗確認とグループ重要リスクへの対策状況の確認、及び新たなリスクへの対応を主要な役務としています。

同委員会は、シチズン時計の社長を委員長としており、その傘下に主要なリスクテーマに応じた担当役員・リスク主管部門を配置した各委員会を設置し、財務的なリスクの他、コンプライアンスやBCP、知的財産、情報セキュリティ、労働慣行、環境問題等のESGリスクも含め、トップマネジメントによる重要なリスクの把握と対応を行っています。2018年度は海外技能実習生の受入と労働状況の実態調査等を行いました。本体制の構築により、グループ共通の

重要リスクと各社固有のリスクのグループ間での情報共有を通じ、リスクマネジメントのノウハウをグループ各社で共有するとともに、また、グループ全体で均一にリスクマネジメントを行うことを可能としています。

2018年度には新たに、グループ品質コンプライアンス委員会を設置しています。本委員会は、グループリスクマネジメント担当取締役を委員長とし、各グループ会社の品質担当役員から成っており、グループ統一での指針となる「シチズングループ品質行動憲章」の策定の他、品質管理部門の独立性を担保するための組織変更、品質管理に関する研修の実施や、契約書や品質検査においてもグループ統一の基準を設ける等、品質に関わるリスクの低減に向けた体制作りを進めてきました。今後は、更に品質に関する監査機能も強化し、定期的なモニタリングや監査を実施していきます。

シチズングループは、今後も引き続き、グループ全体でのリスクマネジメントの整備と運用に向け、継続的な改善計画を進めていきます。



2018年度における「グループ品質コンプライアンス委員会」の主な取り組み

品質に関するグループ間の情報共有の為、品質部門によるワーキングチームを結成し、「品質管理面からのコンプライアンス」について討議を行っており、2019年度には、グループ品質コンプライアンス委員

会に、答申を出す予定です。品質不正のグループ内での再発防止に向けて、他社事例等も踏まえ原因となり得る以下の要素を、定期的に監査する仕組みの構築を検討しています。

- | | | |
|--|---|---|
| <p>1 検査プロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> 検査データの信頼性に関する仕組み 検査データ改ざんの動機・機会に着目した仕組み 改ざん防止・発見を可能にする仕組み 検査精度を担保する仕組み | <p>2 規格外品の取り扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> 規格外品に関するルールの確認顧客との品質要件の遵守を担保する仕組み 規格外品発生時の記録管理、顧客とのコミュニケーションに関する記録管理 | <p>3 契約締結・履行</p> <ul style="list-style-type: none"> 品質コンプライアンスを確保するための契約関連業務の確認契約審査 管理に関するルール プロセス、契約内容の履行を担保する仕組み、契約条件の記録・管理 |
|--|---|---|

「シチズングループ品質行動憲章」の策定と浸透活動

シチズングループでは従来、法令遵守を超えた「シチズングループ行動憲章」に則った事業活動を実践することで、コンプライアンスの徹底に取り組んできました。

しかし、2017年度、グループ会社における不適切行為が発覚したことで、コンプライアンス意識の改善の必要性を改めて認識しました。コンプライアンスの徹底を社員一人ひとりの胸に刻むため、2018年度、企業理念「市民に愛され市民に貢献する」に基づいたものづくりの考え方や価値観等を明文化した「シチズングループ品質行動憲章」を策定しました。この新たな品質行動憲章では、品質に関わる法令や契約の遵守、ステークホルダーと連携した情報共有の実施、各部門の品質に関わる役割の明確化等を定めており、ものづくり企業としての責任を果たすため、

シチズングループ全体への浸透を図っています。「シチズングループ品質行動憲章」の浸透活動については、事業統括会社の部門長を対象とし、これまでに計301名に対し、品質コンプライアンス概況調査や当該テーマに関わる研修を実施してきました。また、ポスターの掲示やイントラネットでの開示、社内報での特集記事により、グループの全従業員へ向け、憲章の内容について周知徹底活動を行っています。海外拠点については、「シチズングループ品質行動憲章」の読み合わせを行いました。2019年度においては、更に、新入社員へ向けた周知活動として、企業理念、グループ行動憲章、グループ品質行動憲章の体系的な説明のほか、事業統括会社ごとに品質方針を含めた研修を行いました。



内部通報制度及び内部監査の整備

シチズングループでは、内部通報制度の実効性の向上を目指し、継続的な改善に取り組んでいます。2018年度には、グループ監査・CSR連絡会を開催し、グループ会社における内部通報制度の担当者との討議を通じた、制度運用上の課題の洗い出しを行いました。また、消費者庁の定める内部通報ガイドラインやコーポレートガバナンスコードを参考とし、新たな「グループコンプライアンスホットライン規程」の策定や、通報制度の利用者と通報制度窓口担当者の双方に向けたガイドラインを設け、制度の周知と透明性の向上を目指しています。更に、グループを通じた制度の認知度向上を高めるため、各事業統括会社の部門長を対象として、コンプライアンスホット

ラインに関する研修を実施しました。また、当該制度が匿名である等、通報者が保護される仕組みを積極的に伝えることで実効性の改善を目指しています。2019年度はコンプライアンスホットラインの認知度についてアンケート調査を行う予定です。また、2018年度には内部監査の体制や機能の見直しにも取り組み、各グループ会社の内部監査担当部門へのヒアリングを実施し、現在の運用状況や課題を把握、整理を行いました。外部の国際基準を参考に、グループ内部監査の実効性の向上を目指したロードマップを作成し、その計画に沿って、グループリスクマネジメントを一層強化していきます。

人材力の強化に向けたシチズングループの取り組み

シチズングループでは、従来、従業員の働きやすさを重視した経営活動を行ってきました。低い離職率や長い勤続年数に満足せず、更に働きやすい環境整備として、日本政府による「働き方改革」が提言する、有給休暇の取得促進や、残業時間の削減についても、継続的な対策を講じることで着実に成果を上げてきました。近年では、シチズン時計によるストレスチェックや健康宣言を通じた取り組みが、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、実践する「健康経営」に繋がると評価され、健康経営優良法人認定制度「ホワイト500」^{*1}に認定されています。

女性従業員を取り巻く環境については、ライフステージに拠らず、働き続けられる職場環境整備に向け、社内配偶者の転勤等への帯同にともなう「帯同休職」を数十年前から導入しているほか、柔軟な働き方を可能とする各種制度を導入してきました。これらの取り組みの結果として、2017年より、性別多様性に優れた企業を対象に構築される株価指数MSCI日本株女性活躍指数^{*2}（通称：WIN）の構成銘柄に2年連続して選定される等、社会からも高い評価を受けています。今後も、ダイバーシティの観点から、属性によらず、誰もが働きやすい職場環境整備を目指していきます。

従業員が長く働くことのできる職場環境の実現に向けて前進する一方、組織の競争力の源泉となる人材の育成という面では課題が認識されています。全従業員を対象とした従業員満足度調査においては、より働き甲斐のある仕組みや、成果が反映される制度を求める声が寄せられており、人事部として、従業

員の要望に応える対策に取り組んでいます。

前中期経営計画「シチズングローバルプラン2018」において、重点課題のひとつとして掲げられていた生産性向上や人材力強化の対策として、これまでの部門レベルにおける目標管理制度の他、個人レベルの目標管理制度を導入し、年度ごとの目標設定と進捗、実績の報告及び上長による面談を開始しました。目標管理制度の導入は、各人による目標設定や、上長による設定目標の適切さの判断等、従業員が慣れるまでの期間、多くの課題が発生することが予想されます。今後は、適切な目標設定の助言や指導を可能とする管理職研修等、現場で発生した課題に応じた善処策を検討し、本制度の定着と実効性の向上を目指していきます。また、シチズン時計では、2019年度は、さらにタレント・マネジメント制度の導入を検討しており、より働き甲斐のある職場環境の整備を目指します。

シチズングループとしての取り組みでは、グループ間のシナジー創出を目的とした、グループ共通の新人研修、グループ一括の採用活動、グループローテーションによる配置転換を実施しています。

2018年度は、グループ全体での採用イベントを実施し、各事業間で連携することで、各社の人材ニーズとマッチした採用活動に繋がっています。また、入社後は、シチズングループの従業員が国内外各地に赴き、社会課題の解決に向けた社会貢献活動に関わる新たな制度「社会貢献活動派遣制度」を新入社員研修制度の一環としても取り入れました。総勢120人の新入社員にとって、企業理念である市民への貢献を体

感する機会であると同時に、当該活動を通じ、各社や組織の壁を越え、グループ間の連携を深める土壌となることを期待しています。

※1 健康経営優良法人認定制度「ホワイト500」…東京証券取引所の上場企業のうち、特に優れた「健康経営」を実践している法人をリーディングカンパニーとして選定する制度。

※2 MSCI日本株女性活躍指数…モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI)による、性別多様性に優れた企業としての評価。



「サステナブル経営」の推進に向けたお取引先との連携

シチズングループでは前中期経営計画の「シチズングローバルプラン2018」で掲げた「真のグローバル企業」を目指すにあたり、2016年に発行した「シチズン時計CSR調達ガイドライン」を、2017年にグループ共通の「CSR調達ガイドライン」として発行し、グループ全体で統一したCSR調達活動として本格化させ、製品のみならず調達活動を含めた企業責任の認識に基づきお取引先との連携強化に努めています。シチズングループのCSR調達の推進体制は、シチズン時計のCSR担当役員を中心に、CSR室と環境マネジメント室が事務局となりグループ会社に展開を図っています。各グループ会社では、CSR担当部門と購買担当部門が連携してサプライチェーンの情報をまとめ、事務局に報告する体制となっています。

本取り組みの推進活動として、2018年度は、グループ間のCSR調達連絡会を開催し、各社の取り組み状況を共有するとともに、理解と浸透を深めるため、CSR調達の重要性に関する講義やワークショップを実施しました。本連絡会には各事業会社のCSR担当や調達担当、総勢21名が参加し、CSR調達の重要性や最新動向について学びました。

2019年度は、CSR調達の取り組みを更に発展させるために、各事業統括会社において、サプライヤーアンケートを実施します。シチズングループでは、国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（以下、GCNJ）のサプライチェーン分科会に参加しており、「CSR調達入門書－サプライチェーンへのCSR浸透－」「CSR調達セルフ・アセスメント・ツール・セット」等、同分科会が発行したサプライチェーンマネジメントやCSR調達に関する専門書の制作に協力してきました。サプライヤーアンケートには、GCNJの「CSR調達セルフ・アセスメント・ツール・セット」を利用します。アンケートの実施に先立ち、各事業の統括会社を中心とした7社において、CSR調達の重要性を確認する目的の勉強会とアンケートに関するガイダンスを実施し、合計108名が参加しました。また有識者による講演会も開催し、本講演会には、購買・調達担当者のみならず、各事業統括会社の社長や役員、経営企画部門など合計99名が参加しました。役員レベルにおけるCSR調達に関する意識向上を通じ、グループ全体で、トップダウンによる環境や社会面に配慮したCSR調達活動の追求・徹



底を目指します。

シチズングループで、いち早くCSR調達を本格的に導入したシチズン電子では、2010年には、サプライヤーにシチズン電子グループCSR調達ガイドラインを配布しCSR調達の理解を求めました。新規口座開設時にも同様の活動を行っています。又、サプライヤー年次評価においては、CSR調達ガイドラインの内容に沿って、従業員の健康管理や汚職・賄賂等の禁止、責任ある鉱物調達等の項目を中心に、サプライヤーの遵守状況の確認を行っています。また、主要製品であるモバイル機器用のチップLEDや、タクティルスイッチについては、納品先である電子関連企業各社に対するサプライヤーの立場にもあり、顧客企業のCSR調達活動にも協力してきました。年間25～30件程度のセルフチェックや監査を受けている顧客企業からの要請は、各社の行動規範に則った内容となっており、年々厳しさを増しています。自社のサプライチェーンに対しては、シチズングループCSR調達ガイドラインの展開・浸透活動に継続して注力し、サプライチェーンとともに対応を強化しています。また、製品中の紛争鉱物^{*}の使用状況についても、年間130件程度の問い合わせを受けています。シチズン電子では、過去に実施した調達先における紛争鉱物使用状況の調査結果をもとに、随時、顧客からの要請に対応しています。シチズングループでは、こうしたグループ企業の活動を取り巻く事業環境を鑑み、2019年4月、シチズングループとして紛争鉱物不使用の姿勢を明確にするため、紛争鉱物対応方針を策定しました。

※ 紛争鉱物…コンゴ民主共和国及びその隣接諸国等の紛争地域で採掘された鉱物、タンタル、スズ、金及びタングステン等をいう。武装勢力による人権侵害や環境破壊等が問題となっている。

新たな環境中期計画と長期環境ビジョンの策定

シチズングループでは、前中期経営計画「シチズングローバルプラン2018」の策定に合わせて発表した「シチズングループ環境中期計画」に沿って、グローバルな視点での環境活動を2013年より推進してきました。2014年度には、環境マネジメントシステムISO14001のグループ統一認証の取得により、環境マネジメントのグループ一体体制を確立し、以来、環境配慮型製品及びサービスの提供、グローバル環境法規制への対応と監査の強化、低炭素社会及び循環型社会形成への貢献と、自然保護・地域活動に重点的に取り組んできました。

新たな「中期経営計画2021」を受けた「環境中期計画2024」では、サステナブル経営の実践を掲げ、シチズングループ全体で、環境や人権、コンプライアンス、BCPを包含した、サステナブルファクトリーによる持続可能なものづくりを行うことを約束しています。時計事業を皮切りに、自社だけでなくサプライチェーンを通じ、サステナブルファクトリーの実現と運営、サステナブルプロダクツの創出に取り組めます。太陽光発電で稼働するエコ・ドライブを筆頭に、全ての時計製品がシチズングループの定義する環境配慮型製品であり、製造段階からお客様の使用時まで、一貫して環境負荷が小さいことを特徴としているのは、シチズンが培ってきた小型化、省電力技術やノウハウを生かしたものづくりによるものです。

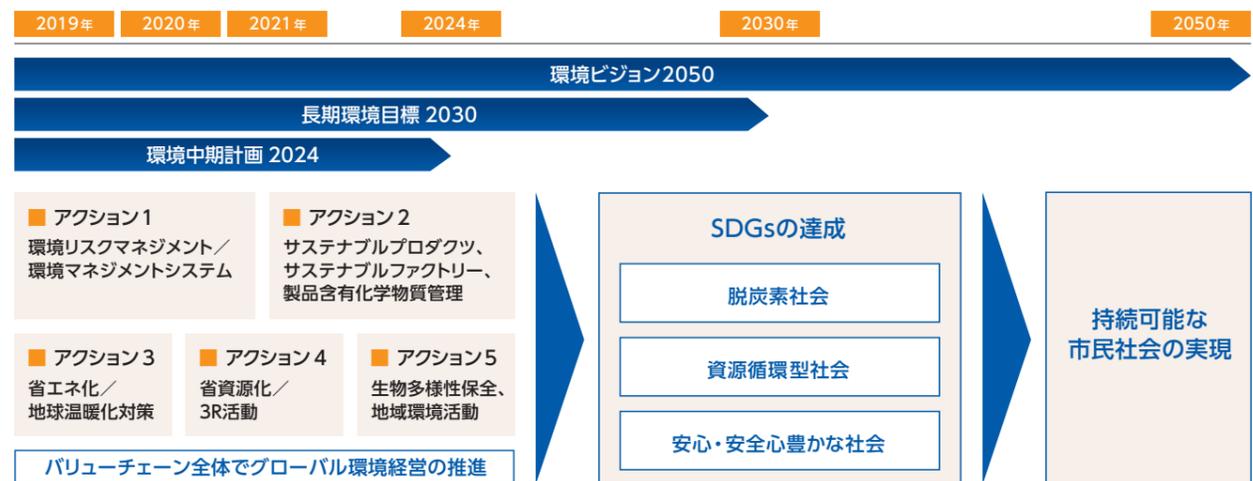
また、エシカルに対するこだわりの詰まった「シチ

ズン エル」は、金属採掘時の環境破壊や人権侵害が問題となっている紛争鉱物を使用しないDRCコンフリクトフリー^{*}を宣言しているほか、取扱説明書のスリム化、パッケージの工夫等、省エネルギーに留まらない環境・社会面での負荷低減を誇っています。シチズン時計では、こうした製品群の拡充に注力するとともに、サステナブル経営による広範囲な社会へのインパクトや、より大きな訴求効果を生み出すために今後は課題を共有するNPOとの連携も視野に入れて活動していきます。

更に、2019年4月には、シチズングループの長期的な環境面の取り組みの方向性を明確にした「長期環境目標2030」及び「環境ビジョン2050」を策定しています。「長期環境目標2030」では、SDGs達成への貢献を視野に入れており、5つの目標達成を目指すほか、「環境ビジョン2050」では、脱炭素、資源循環、安心・安全で心豊かな社会の実現に貢献します。シチズングループは、これらの長期的なビジョンを掲げ、サステナブル経営の実践による「市民に貢献する」サステナブルプロダクツの創出を目指し、進化し続けていきます。

^{*} DRCコンフリクトフリー…コンゴ民主共和国及びその周辺国における、違法な採掘である「紛争鉱物」に由来しない材料使用を宣言。

環境ビジョン2050、長期環境目標2030、環境中期計画2024 概念図



製品を通じた社会課題解決への貢献

シチズングループでは、従来、環境配慮型製品の創出に取り組んできました。独自の高い環境配慮基準を満たす製品は、自社やお取引先における製造プロセスにおける省エネ、省資源への対応はもちろんのこと、太陽光発電で稼働する機能であるエコ・ドライブなど、消費者使用時の電池交換が不要であり、エネルギー量や廃棄物の削減を実現しています。バリューチェーンを通じて、環境負荷を小さく抑える、時計づくりで培った製品の小型加工技術や省エネのノウハウを生かし、B to Cだけでなく、B to B事業においても、環境課題の解決に寄与しています。

例えば、幅広い製造業界における部品づくりに不可欠な工作機械を手掛けるシチズンマシナリーでは、自動車や医療、IT・家電、建設機械、住宅設備などの幅広い業界向けの部品加工用の工作機械を開発・提供しています。シチズン独自の制御技術であるLFV（低周波振動切削）技術では、サーボ軸^{*}を切削方向に振動挙動させ、切削中に刃物があたらない「空

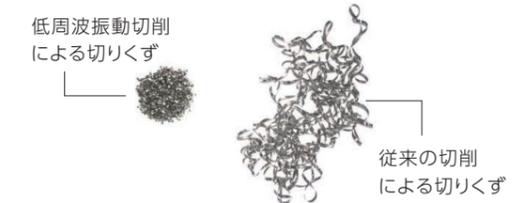
切りくずの形状の差

低周波振動切削では、切削時に設けた「空振り」する時間が切りくずを細かく分断して排出しています。従来の切りくずと比較し、1加工当たりの切りくずの容量（体積）を約50%～90%削減します。

振り」する時間を設けることで切りくずを分断させる加工が可能です。従来の部品加工の過程では、切りくずが長く、からまるリスクがあり、不良品の発生や刃具の破損が多く報告されてきました。LFV技術搭載の工作機械では、切りくずのからまりに起因する、機械の稼働停止の回数が少ないため、機械の稼働に必要な電力を減らすとともに、切りくずの細断化によって廃棄物の容量を小さく抑える等、製造現場における環境負荷の低減を実現しています。更に、機械の不具合を減らすことによる加工コストの削減、切りくずの清掃頻度の回数を減らすことによる作業負荷の軽減等、顧客の製造プロセスにおける「環境イノベーション」にも寄与しています。2018年度には、従来のLFV技術にねじ切り加工への対応機能も追加しており、これまで以上に多くの顧客における課題の解決を目指しています。

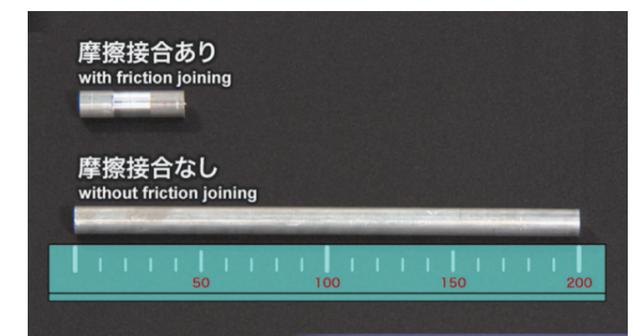
^{*} サーボ軸…モータ、ガイド等からなる送り機構部

同重量の切りくずにおける形状の違い



摩擦接合技術の開発

LFV技術が、部品の加工の切りくずを小さくする一方、新たに開発された「摩擦接合技術」では、加工後に残る残材を大幅に削減することで、残材による廃棄物を削減し、より効率的に材料を加工することで材料コストの削減にも繋がるのが期待されています。シチズンマシナリーの主要製品のひとつである主軸台移動形自動旋盤は、加工時に材料を掴む主軸チャック部と、切削点を保持するガイドブッシュ間の材料が、切削できない残材として残ることが課題でした。この残材を機械外に排出することなく背面主軸などでチャックし、次に供給される材料の先端と接合することで残材を少なくし、材料を最大限有効活用することを可能にします。



LFV技術による残材比較

摩擦接合技術を利用することで、材料の残材を25%以下に減らすことに成功した(当社調べ・最大時)。

社会貢献方針の策定

シチズングループでは、企業理念として「市民に愛され市民に貢献する」を掲げ、事業活動を通じて持続可能な社会の発展へ貢献することを目指しています。また、シチズングループは、事業活動の継続には、地域社会との信頼関係の構築、更には地域の経済や文化の発展及び環境保全に寄与していくことが重要と考えています。「シチズングループ行動憲章」第8

条では「良き企業市民として、地域社会に貢献し、地域社会との共生を目指します」と謳っており、社会貢献活動の重要性については、グループ従業員の共通認識となるべく活動してきました。2019年4月、これまでの活動の意義と、シチズングループとしての取り組みの方向性を明確化するため、「シチズングループ社会貢献方針」を策定しました。

シチズングループ社会貢献方針

■ 基本方針

シチズングループは「市民に愛され市民に貢献する」を企業理念に掲げ、『シチズングループ行動憲章』第8条の「良き企業市民として、地域社会に貢献し、地域社会との共生を目指します」を基本方針として社会貢献に取り組んでいます。

■ ガイドライン

この社会貢献を推進するに当たり、下記の3つのガイドラインを設定しています。

1. 地域との協議・相互信頼を基盤とした事業活動を通じて、良き企業市民として、地域経済の発展に貢献します。
2. 地域の方々との親交、地域活性化への協力を通じ、地域社会との関係を一段と深め、柔軟かつ創造的な企業文化の醸成に努めます。
3. NPO/NGO、ボランティア団体、地域社会等とも連携しながら、社会貢献活動を行います。

■ 重点分野

社会貢献のガイドラインを基に、次の分野に重点を置いて取り組みます。

A 学習・教育 B 環境 C スポーツ D 災害支援

■ 社会貢献活動の積極的支援

従業員が社会課題と向き合う機会を提供し、自発的に参加できるようにそれらの活動を支援します。



タイの子供たちが作成したウエルカムボード

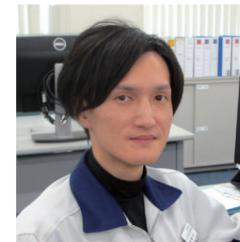
シチズン社会貢献活動派遣制度

シチズングループは創業100周年を迎えた2018年、更なる進化と発展に向け、新たな取り組み「シチズン社会貢献活動派遣制度」を開始しました。この制度は、シチズングループの従業員が国内外の各地に赴き、それぞれの地域における社会課題と向き合った支援活動を行うものです。また、本派遣制度を通じ、参加した従業員が、日常や業務から離れて視野を広げ、新たな価値観を得ることで、市民や社会に愛される製品・サービスを生み出す活動の、アイデアやエネル

ギーをシチズングループのものづくりの現場に持ち帰ることを目的としています。

制度開始初年である、2018年度には、東日本大震災で被災した宮城県やシチズンの拠点のあるタイを含め、全7地域で活動を実施し、グループ全体でのべ210名が参加しました。また、2019年5月には各地で活動に従事した代表者による成果報告会を実施しました。2019年度においても、同じく7地域において、活動実施を予定しています。

参加者の声



参加プログラム「被災地の復興支援」
(宮城県石巻市)

シチズンマシナリー 煤賀 聖史



私が社会貢献派遣制度で「被災地の復興支援」に参加した理由は、東北の仲間である秋田県出身でありながら、手を差し伸べることも出来ないうちに時が経ってしまい、後悔していることや、年齢を重ねて社会情勢に目を向ける必要性を感じるようになったからです。被災地域では、7年経った今でも仮設住宅での暮らしが余儀なくされ、内陸部・主要都市部へと人口が流出し、過疎・高齢化が深刻な状況にあります。本活動では、住民の心のオアシスであるパラ園の整備を主とした活動を行ないました。活動や寝食におけるグループ・世代を超えた協力を通じて、チーム

ワークの重要性を再認識すると共に、地域の方々との交流も図ることができ、大変良い経験となりました。また、多くの児童が亡くなられた大川小学校を見学した際には、壁や柱の倒壊・周辺に家屋が無いなどの状況から津波の脅威が窺え、様々な想いが交錯しました。

こうした活動へ割く時間は社会人になると限られますが、奉仕活動を通じて普段交流する機会の少ないシチズングループのメンバーや地域の方々と交流できるなど、有意義な時間を過ごすため、同僚にも積極的に参加を勧めたいと思います。



参加プログラム「子ども支援プロジェクト」
(タイ、コラート)

シチズン時計 親盛 愛



今回この活動に参加した理由は、学生時代から企業の社会貢献やCSR活動に興味を持っていたから、また現地の人々と実際に交流してみたいと思ったからです。

私たちが訪れたタイの農村地域コラートでは伝統的な生活様式を営む人々が多く、急速な経済発展を遂げている都市部とは、教育機会を含め大きく環境が異なります。今回の活動は、この村の子どもたちにオリジナルの時計を作ってプレゼントし時の大切さを考えてもらうこと、また異文化交流を通して視野を広げるきっかけにしてもらうことが目的でした。

この村では、腕時計は高級品のため所有できる人は少なく、子どもたちは非常にこのプロジェクトを楽しみにしていたと学校の先生たちから聞きました。実際に子どもたちが、その唯一の時計をどんなデザインにしようか、真剣に悩み一生懸命に絵を描いていた姿、また出来上がった時計を着けたときの笑顔が非常に印象的でした。

今後もシチズングループだからこそ出来る社会貢献を引き続き模索し、今回の活動で得た多くの気付きと視点をもって今後の業務に生かしていきたいと考えています。



「国連グローバル・コンパクト」への参加

シチズングループは、2005年4月より、国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての10原則を軸とする「国連グローバル・コンパクト」への参加を表明しています。「シチズングループ行動憲章」改定の際には、その内容に照らすなど「国連グローバル・コンパクト」は、シチズングループのCSR活動の基礎ともなっています。また、シチズングループは、「国連グローバル・コンパクト」参加企業で構成されるGCNJの「サプライチェーン分科会」「SDGs分科会」に参加しています。分科会では、有識

者の講演会によるCSR関連の最新動向や各社の事例を共有すると同時に、参加企業各社の幅広い業界における経験をもとに、様々な企業のCSR推進を支援する各種アウトプットの制作に取り組んでいます。分科会で得られた知見はシチズングループのCSR活動にも反映させています。



社会からの主な評価

シチズングループでは、「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念を実践した事業活動を行ってきました。決して社会の規範に反したり、お客様やお取引先に不信感を抱かせたり、不誠実であったりしてはならないという考えのもと、持続可能な社会

の発展に貢献するため、社会課題の解決に向け様々なCSR活動に取り組んでいます。このような考え方や取り組みについて、外部機関にも評価されており、ESG関連の株価指数等に選ばれています。



■ SNAM サステナビリティ・インデックス※1

2017年より、SNAM サステナビリティ・インデックスの構成銘柄に選定されています。

※1 SNAM サステナビリティ・インデックスとは、損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社 (SNAM) 独自の、ESG 評価と株式価値評価を組み合わせて作成された株価指数。



■ MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)

2017年6月より、WINの構成銘柄に選定されています。

※ MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)とは、モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社 (MSCI) による、性別多様性に優れた企業を対象に構築される株価指数。



■ 健康経営優良法人 2019 大規模法人部門

シチズン時計は、2019年2月に「健康経営優良法人 2019 ホワイト 500」に認定されました。



■ 第1回エコプロアワード奨励賞

シチズンのレディスウォッチブランド「シチズン エル」は、一般的な消費者ができるエコと魅力あるデザインの製品選択を同時にできる提案を評価され、2018年、環境負荷の低減に配慮した製品・サービスを表彰する第1回エコプロアワード (旧エコプロダクツ大賞) 奨励賞を受賞しました。

■ 精密工学会高城賞

2019年3月、東京農工大学、シチズンマシナリーとシチズン時計の三者の共同による、工作機械に搭載のLFV (低周波振動切削) の技術研究、開発の成果をまとめ、「プレジジョン・エンジニアリング」誌で発表した「Chip control in turning with synchronization of spindle rotation and feed motion vibration」というタイトルの論文が、独創性に優れ、工業的価値が高い論文に贈られる賞である、精密工学会の高城賞を受賞しました。



シチズングループの事業基盤

シチズングループでは、創業以来、時計事業を通じて培ってきた、製品をより小さく精密にする技術や、消費電力の少ない製品づくり等、シチズングループならではの高い技術を活用し、他のコア事業においても新たな価値を提供しています。

■ その他の事業

シチズングループならではの精密技術を生かしてつくられる高品質なジュエリーは、永く身に着けられ、日常を彩るものとして、多くの人々に愛されています。また、アイススケート場等の運営を行って、市民の憩いの場づくりに貢献しています。

■ 電子機器事業

時計事業から引き継いだ精密加工・組立技術を活用してつくられたPOS・バーコードプリンターと高精細デジタルフォトプリンターは、各種店舗や工場など、社会の様々な場面で活躍しています。また、電子血圧計や電子体温計を中心としたヘルスケア製品は、人々の健康管理をサポートし、健やかな暮らしづくりに貢献しています。

■ デバイス事業

時計事業で培った小型・精密加工技術を活用し、プレーキユニットやエンジンユニット等で使用される「自動車部品」の他、製品の低消費電力化と長寿命化を可能にした照明用LED、スマートフォンのスイッチ、液晶などの身近な電子機器等に組み込まれるデバイス部品の製造で、人々の生活をより便利で快適にするだけでなく、地球環境への負荷も軽減します。



■ 時計事業

世界中で愛される時計づくりを目指してきたシチズングループにとって、時計はものづくりの原点です。現在も多くの方々から支持される光発電技術「エコドライブ」など、世界初の革新的な製品をはじめとし、新たな機能を備えたモデルも生み出し続けています。

■ 工作機械事業

医療や自動車、IT など幅広い業界で必要不可欠な部品をつくる工作機械は、今日の技術の進歩や社会の発展を支えています。変化の時代において多様化するニーズに応える細やかな技術を開発しています。

企業概要 (2019年3月時点)

社名	シチズン時計株式会社	資本金	32,648百万円
創立	1930年5月28日 (創業1918年)	従業員数	14,909名 (5,330名)
本社所在地	〒188-8511 東京都西東京市田無町 6-1-12	※上記は連結の就業人員で、()内は外数での臨時雇用者です。	

シチズングループ一覧



CITIZEN

お問い合わせ先

シチズン時計株式会社 CSR室
〒188-8511 東京都西東京市田無町 6-1-12
TEL 042-468-4776 WEBサイト <http://www.citizen.co.jp/social/index.html>

2019年6月発行



This is our **Communication on Progress** in implementing the principles of the **United Nations Global Compact** and supporting broader UN goals.

We welcome feedback on its contents.